

3年 世界史A 課題(4/17-23)

世界史Aは、教科書P56の大航海時代から始めます。初めて世界史を学習するので、先週配信した課題では、まず世界地図の国名を把握してもらいました。

世界史の学習では、**地図が命**です。新学期

が始まったら資料集(タペストリー)の地図を常に活用しながら授業をしていきます。

*教科書P56-57を読みながら、空欄(1)～(62)に適する語句をルーズリーフに書きなさい。ただし、文中に空欄に入る語句が出ている場合がある。

*問1・2の解答をルーズリーフに書きなさい。

*学習する語句をまずは知っておいてほしいので、このような形式の課題にしました。新学期が始まったら詳しく解説していきます。

*ただ空欄を埋めることだけに注力するのではなく、文章の意味をできるだけ把握しながら進めてください。

*1学期の世界史Aの初回の授業で提出すること。

大航海時代(P56-57)

十字軍以来、(1)では(2)の調味料・香料・(3)などとして、(4)産の(5)の需要が増大した。しかし、(5)商人と(6)商人の手を経由する(7)では、その価格が原価よりはるかに(8)なるため、直接アジアにいこうとする動きがおこった。(9)の改良、(10)・(11)技術の進歩、諸侯をおさえて中央集権化を開始した(12)の援助、利益を求め市民の活動などがヨーロッパの海外進出を促進した。

最初に海外進出をはじめたのは、(13)と(14)であった。アフリカ西岸の探検をすすめたポルトガルでは、1488年に(15)がアフリカ南端の(16)に到達し、

(17)年、(18)が(19)の(20)に到達してインド航路をひらいた。スペインの援助で(21)出身の(22)は、(23)年に大西洋を横断して現在の(24)島に達し、(25)の部下は(26)をはじめて達成した。こうして新航路をひらいたスペイン・ポルトガルは、たがいに競争しながら、スペインはおもに(27)と(28)へ、ポルトガルはおもにアジアと(29)へ進出した。

当時ヨーロッパで急激な(30)増加があったことや、スペインが南北アメリカから大量の(31)をもたらしたことにより、ヨーロッパでは地域による差があったものの、(32)とよばれる(33)がおこった。これにより商工業が活気づいたが、固定地代を収入源としていた領主は打撃を受けた。ポルトガルは香辛料の(34)で利益をあげ、都の(35)は 16 世紀前半に世界貿易の中心地になった。大航海時代には、商業が世界規模に拡大し、ヨーロッパの商業の中心も、(36)から(37)へ移動していった(38)。

世界の一体化(P57)

ポルトガルはアジアに進出し、すでにつくられていた商業ルートに参入した。中国南部の港である(39)を拠点に、(40)をとる(41)と交易し、日本の(42)、中国の(43)・(44)、インドの(45)、インドネシアの(46)を取引する(47)で利益を上げた。また、アフリカ大陸から南北アメリカ大陸へ黒人を送る(48)にも従事し、ブラジルからアフリカ沿岸、モルッカ諸島に及ぶ貿易ルートを開拓した。こうしてポルトガル・スペインの海外進出により、アジア・アフリカ・南北アメリカ大陸が商業によってむすびつけられ、ヨーロッパを中心とする(49)がはじまった。

なお、16 世紀には(50)が毛皮を求めて(51)への進出を開始した。ヨーロッパの拡大は海路のみならず陸路からおこなわれたのである。

大航海時代の日本(P57)

16世紀なかごろに(52)が(53)に漂着して(54)が日本に伝わり、戦国時代の日本の戦法が変化し国家統一が促進された。また、(55)の(56)が鹿児島にきて(57)を伝えた(58)年。その後日本では、(59)もあらわれ、日本人の使者が(60)のもとに派遣されるいっぽう、宣教師やポルトガル商人・スペイン商人によってヨーロッパの文化がもたらされた。また、戦国時代から江戸時代の初期には日本人もさかんに(61)に進出して貿易をおこない、各地に(62)がつけられた。

問1 香辛料の代表を一つ答えなさい。P56のページ数の上の文章をよく読んで答えなさい。

問2 コロンブスはトスカネリが唱えたある説を信じた。何という説か、P56のページ数の上の文章をよく読んで答えなさい。